

(8) 東部瀬戸内海基礎生産量調査

予算

大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成

結果の概要

本研究では、東部瀬戸内海に位置する大阪湾、播磨灘、備讃瀬戸の各海域において環境因子(光、水温、塩分、栄養塩濃度)、植物プランクトンの現存量、基礎生産量の季節変化を測定し、各水域における基礎生産の特徴を明らかにする。また、本調査により得られた結果を1960～1990年代の報告と比べることにより、これらの水域の基礎生産がどのように変化したのかを考察する。

大阪湾においては湾奥部および湾中央部に2定点を設け、6月中旬、8月上旬、10月下旬、2月上旬に環境因子(光、水温、塩分、栄養塩濃度)、植物プランクトンの現存量、基礎生産量の測定を行った。今回測定された基礎生産量は、地点ごとに特徴的な性状を示した一方で、各年で異なる様相が観察され、各調査日や各年の気象条件などにも左右されることが示唆された。また、過去の結果と比べると、春に栄養塩濃度が著しく低下したときに基礎生産が低下している可能性が示唆された。

担当者

秋山 諭